

伊賀市の賑わい創出グランドデザイン

平成28年3月

伊賀市の賑わい創出検討協議会

□ はじめに

伊賀市では、平成 20 年 11 月に中心市街地活性化基本計画が認定され、それ以降これに基づくリーディングプロジェクトとして駅前再開発事業によりハイトピア伊賀の建設が行われるなど、中心市街地活性化の実現に向けた様々な事業や活動が行われています。

このような中、伊賀市役所の移転に伴い、現庁舎の利活用をはじめ上野市駅周辺の公共施設のあり方や、それに伴う中心市街地の賑わい創出のあり方を再構築する必要性が生じてきました。

このため、平成 27 年度に「伊賀市の賑わい創出検討協議会」が設立され、これまで様々な場で行われてきた議論をひとつのテーブルに乗せて協議・検討し、更にパブリックコメントや住民説明会などで市民からの意見を得た上で、伊賀市の賑わい創出ランドデザインを策定しました。

協議会で全 6 回の議論を行った成果として、最善策を主案とするとともに、南庁舎に関しては、専門的な評価、検証に基づく議論が必要であることや、協議会委員や市民からの保全を求める声を加味し、その改修案を副案としています。

なお、ランドデザインの実現にあたっては、今後のスケジュール、実現のための体制づくりや財源等の確保などとも関係があることから、早急に検討し実現に向けて進められるよう希望します。

平成 28 年 3 月

伊賀市の賑わい創出検討協議会

会長 田 山 雅 敏

目 次

1. グランドデザイン策定の目的と位置付け.....	1
(1) グランドデザインの目的.....	1
(2) グランドデザインの位置付け.....	2
2. 伊賀市の賑わい創出グランドデザイン.....	3
(1) グランドデザイン.....	3
(2) 必要な機能と規模の配置.....	3
3. グランドデザインの実現に向けて.....	9
(1) 計画の視点.....	9
(2) 事業スケジュール.....	9
□グランドデザイン補足資料.....	10
(1) 中心市街地が果たしてきた役割の再確認.....	10
(2) グランドデザインの基本方針.....	10
(3) 賑わい創出の方向.....	11
(4) 中心市街地に今後必要な機能.....	12
(5) 将来のゾーニング.....	14
□ 検討の経過.....	16
(1) 協議会の開催状況.....	16
(2) 伊賀市の賑わい創出検討協議会設置要綱.....	17
(3) 伊賀市の賑わい創出検討協議会委員名簿.....	18

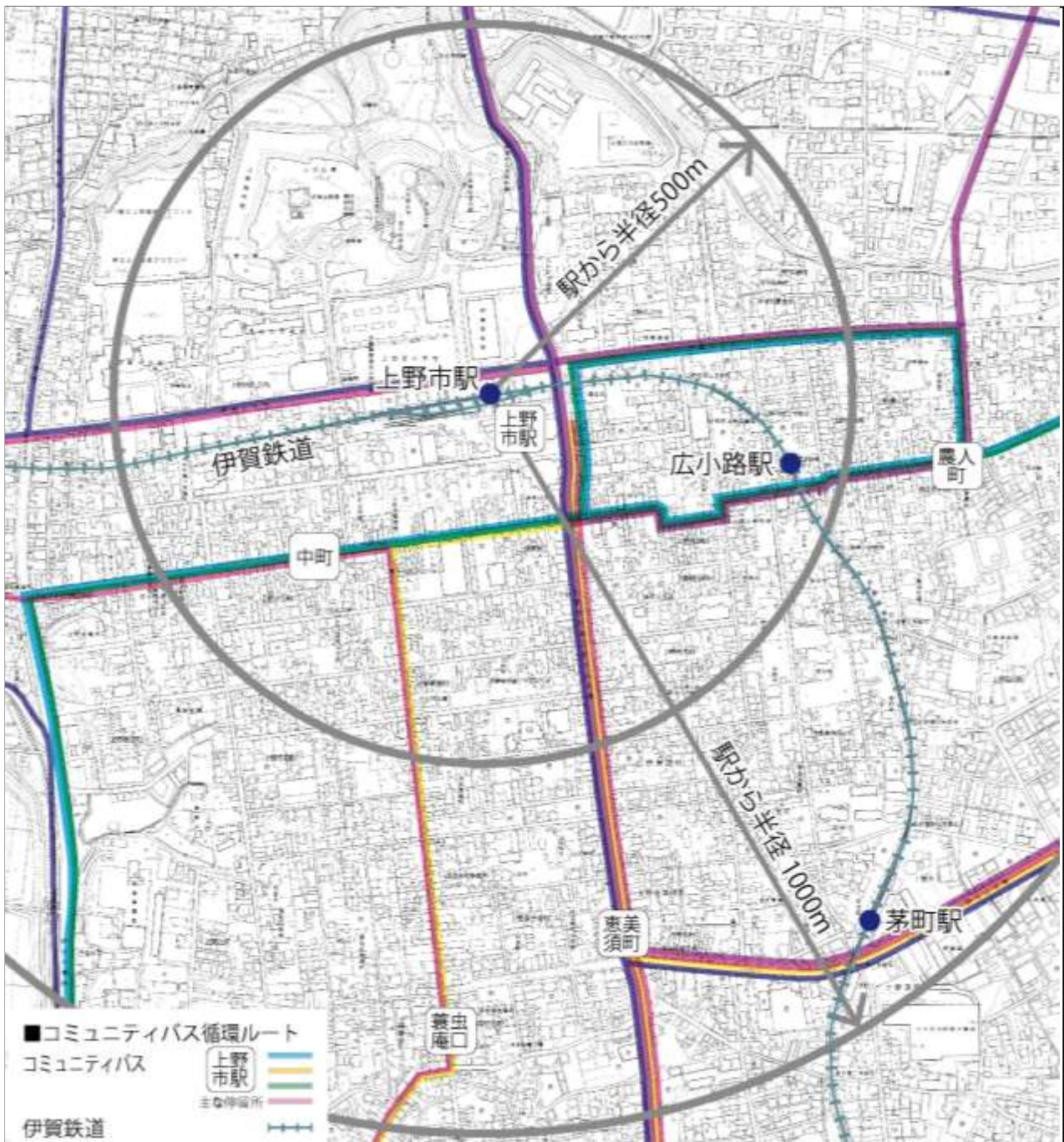
1. グランドデザイン策定の目的と位置付け

(1) グランドデザインの目的

伊賀市では、急速な高齢化や人口減少に歯止めをかけ、10年、20年先を見据えた活気ある「来たい、住みたい、住み続けたいまち」となるため、「伊賀市の賑わい創出検討協議会（以下「協議会」という。）」を立ち上げ、中心市街地のグランドデザインを策定します。

なお、グランドデザインとは、伊賀市上野丸之内を中心としたエリアにおいて、伊賀市の賑わい創出に向けた中心市街地のまちづくりに関する方向を示すとともに、この実現に向け必要となる公共施設の再配置と機能配分等についてまとめたものです。

図 中心市街地の位置



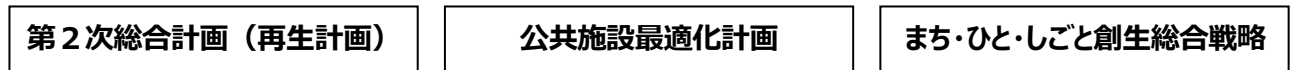
背景地図出典：2011 三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合



(2) グランドデザインの位置付け

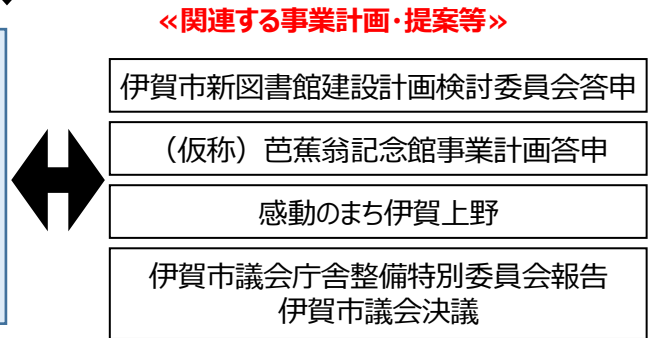
「伊賀市の賑わい創出グランドデザイン」は、既に策定された計画の内容を踏まえながら、関連する事業計画や提案等との整合を図った上で策定します。

《踏まえるべき内容、参考とすべき内容（関連計画等）》

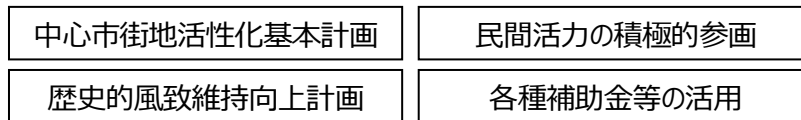


「伊賀市の賑わい創出グランドデザイン」

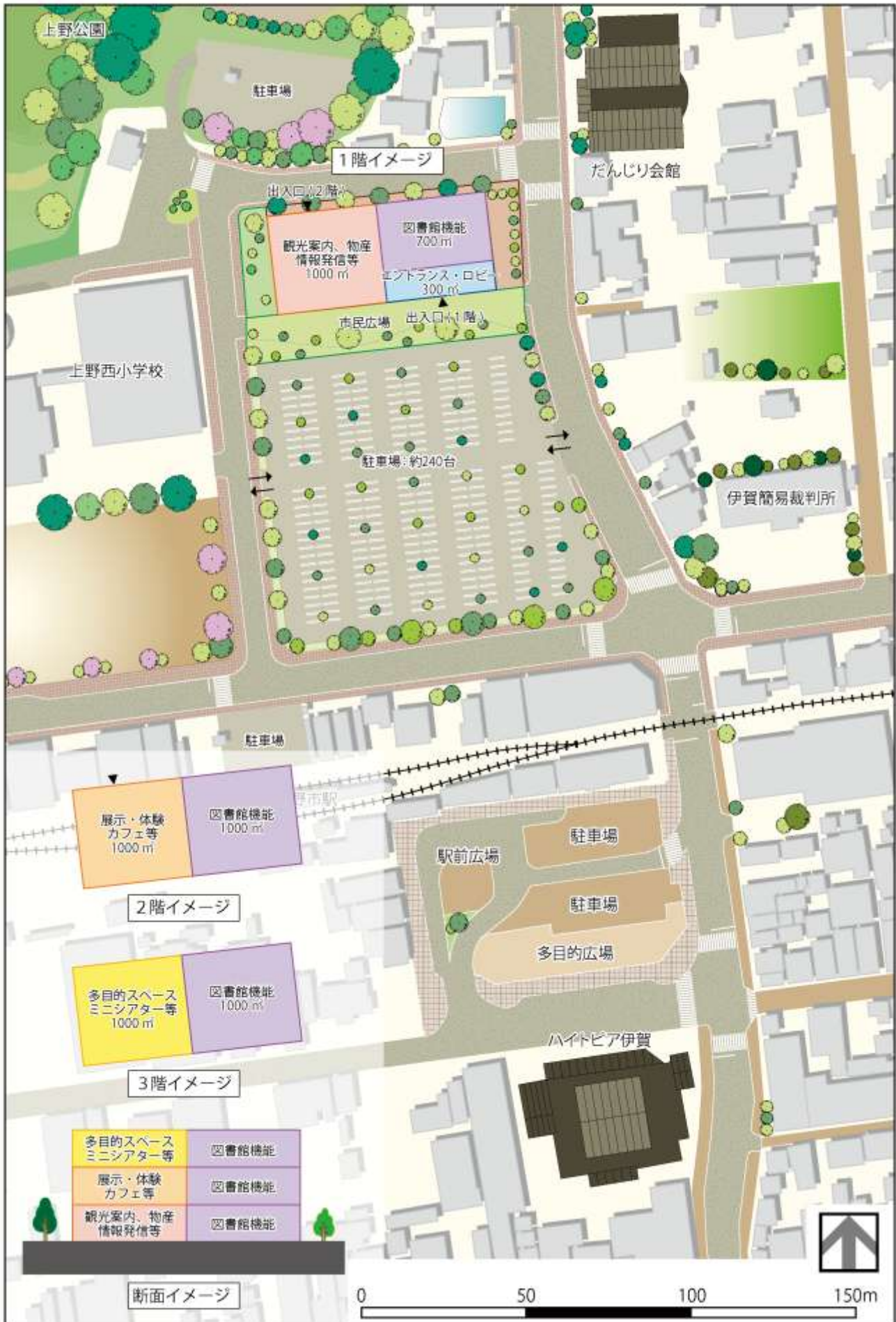
- ・地域間連携を踏まえた市街地の活性化
- ・市街地に必要な機能の整理と公共施設の再配置
- ・官民連携、民間活力の積極的参画
- ・伊賀市の賑わい創出方針



《事業実施の具体的手法》

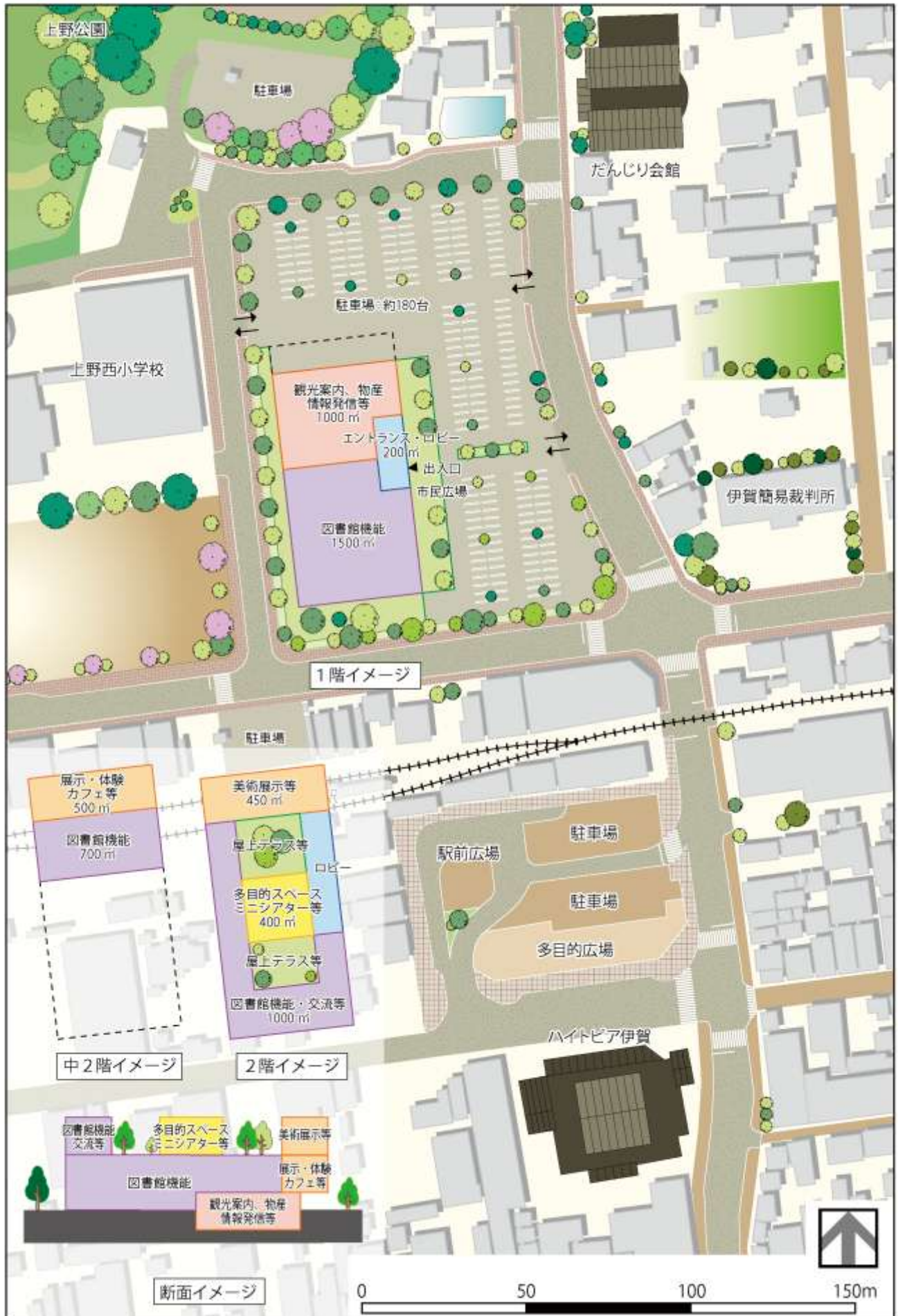


② 具体的配置イメージ
 図 現庁舎地周辺（主案）



背景地図出典: 2011三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合

図 現庁舎地周辺（副案）



背景地図出典: 2011 三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合

図 現図書館周辺（新築案）



背景地図出典: 2011 三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合

図 現図書館周辺（既存施設活用案）



背景地図出典: 2011 三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合



【配置機能のイメージ】



一般図書（開架）
（愛知県日進市立図書館）



ロビー、テラス
（愛知県日進市立図書館）



こども図書（開架）



くつろぎテラス
（山口情報芸術センター）



屋上テラス
（愛知県日進市立図書館）



カフェ（武蔵野プレイス）



市民ギャラリー（武蔵野プレイス）



情報発信コーナー
（大垣市奥の細道むすびの地記念館）



観光情報センター
（田沢湖観光情報センター）



3. グランドデザインの実現に向けて

協議会では、限られた検討期間の中で中心市街地が賑わい創出の拠点となるために必要な機能を中心に議論をしてきました。

今後、グランドデザインの実現に向けて具体的に検討するにあたり、必要な視点について、以下のとおり示します。

(1) 計画の視点

① 主な事項

- ・観光に関する機能の具体的内容の精査
- ・新たに配置する施設の具体的内容と関連施設との連携
- ・中心市街地に必要な機能の役割分担

② 附属的な事項

- ・各種答申の内容を十分に踏まえた事業計画の策定
- ・現施設の構造的な評価
- ・利用者にとって快適な施設連携のための動線の確保
- ・駐車場、歩行者や車椅子・自転車利用者等の円滑なアクセス
- ・交流を育む市民広場やうるおいある緑
- ・伊賀上野城や上野公園などの景観との調和
- ・地域間連携や人材育成に繋がるソフト面の取り組み
- ・民間活力の積極的な活用

(2) 事業スケジュール

グランドデザインは、基本方針に基づき、合併特例債の活用期限や財政状況を踏まえた上でイメージの具現化が図られることとなりますが、今後は詳細な検討を重ねるため、専門的知見や利用者となる市民らの意見を十分に取り入れて進められることを望みます。

□グランドデザイン補足資料

(1) 中心市街地が果たしてきた役割の再確認

グランドデザインの目的は、位置付けや前項までの中心市街地に関する現況の整理を踏まえて、中心市街地が果たしてきた役割を次のとおり整理しました。

つまり、中心市街地は、伊賀市の玄関口であるとともに交通の結節点でもあります。そして、伊賀市人口の約2割が居住する、まちの機能が集積するエリアで、学校教育の中心でもあります。

- ① 伊賀市の玄関口
- ② 交通の結節点
- ③ 学校教育の中心
- ④ まちの機能が集積するエリア
 - ・医療、福祉機能の集積
 - ・歴史に培われた商いの集積
 - ・行政、市民サービスの集積
- ⑤ 伊賀市人口の約2割が居住するエリア（市街地3自治協）

(2) グランドデザインの基本方針

中心市街地のまちづくりは、将来像が実現するまでに長い時間を要するとともに、多くの人々が関わりながら進めていくことになります。

このため、本グランドデザインは、これからの中心市街地のまちづくりについて、伊賀市の賑わい創出につながる方向を明らかにするとともに、中心市街地における公共施設の再配置と機能配分等について示すなど、次の4つの基本方針に基づいて策定しています。

基本方針

- ① 地域間連携を踏まえた市街地の活性化に関すること
- ② 将来の社会動向や時間軸を見据えた都市構造における公共施設再配置と機能の配分に関すること
- ③ 官民連携や、積極的な民間活力の活用に関すること
- ④ 上記を踏まえた伊賀市の賑わい創出に関すること

(3) 賑わい創出の方向

グランドデザインにおける賑わいの方向は、4つの基本方針を実現するための方策として、外部からの来訪者による賑わいと、市民による賑わいが融合し、相乗効果を得、中心市街地はもちろんのこと、周辺地域への波及効果を目指して検討してきました。賑わいの方向を導く具体的な資源や取り組みは以下のように考えられます。

多様な賑わいの相乗効果

◆歴史、伝統文化、芸術のまちを活かした取り組み◆

伊賀地域には、戦禍を逃れ400年の歴史を持つ上野城下町のまちなみや建造物をはじめ、国の伝統的工芸品に位置付けられる「伊賀焼」や「伊賀組紐」などの伝統産業、また全国的に知られる「伊賀忍者」や「松尾芭蕉翁」は他地区にはないこの地域の資源であり魅力です。

これらの資源を活用した「伊賀上野NINJAフェスタ」や「城下町のおひなさん」、「いがぶら」などは多くの方に伊賀の魅力を伝える取り組みとして親しまれており、引き続き丁寧に情報発信していくことで、来訪者が身近に伊賀を感じ、文化・芸術に触れることで賑わいが生まれます。

また、歴史や伝統文化、芸術やこれらに関する取り組みは、来訪者に向けた賑わい創出にとどまらず、自分たちが生まれ育ち、次世代の子どもたちへと継承する、誇りある地域として市民に向けた賑わいも創出することができます。

こうした賑わいの相乗効果を生む場所では、内外の多様なニーズに応え、利用者が自由に使い方を工夫できる機能が望ましいと考えられます。

賑わいが融合することで平日・休日、昼夜を問わず賑わいが生まれる

◆伊賀市民の日常の営みを支える生活拠点づくり◆

中心市街地において、公共交通を含めた利便性が確保され、城下町伊賀上野を象徴する「核」となる現伊賀市庁舎地は、来訪者に向けた伊賀市の玄関口であるとともに、市民にとっても大切な場所であると考えられます。

コミュニティ活動や生涯学習、スキルアップなどに関する学びや、そこから生まれる市民同士、市民と来訪者の交流など、市民を日常的に支え、応援する場所として必要な機能を充実させることで、市民による賑わいが生まれてきます。

また、この場所は小中高等学校、商店街、銀行、ハイトピア伊賀、郵便局等多くの施設との連携を図ることが可能で、伊賀市全域への交通アクセス拠点でもあることから、地域間連携の拠点でもあります。

市民にとって魅力ある地域であることは、来訪者にとっても魅力的な地域であるといえます。こうした賑わいの融合による相乗効果こそが、グランドデザインの方向です。

(4) 中心市街地に今後必要な機能

① 中心市街地に必要な機能

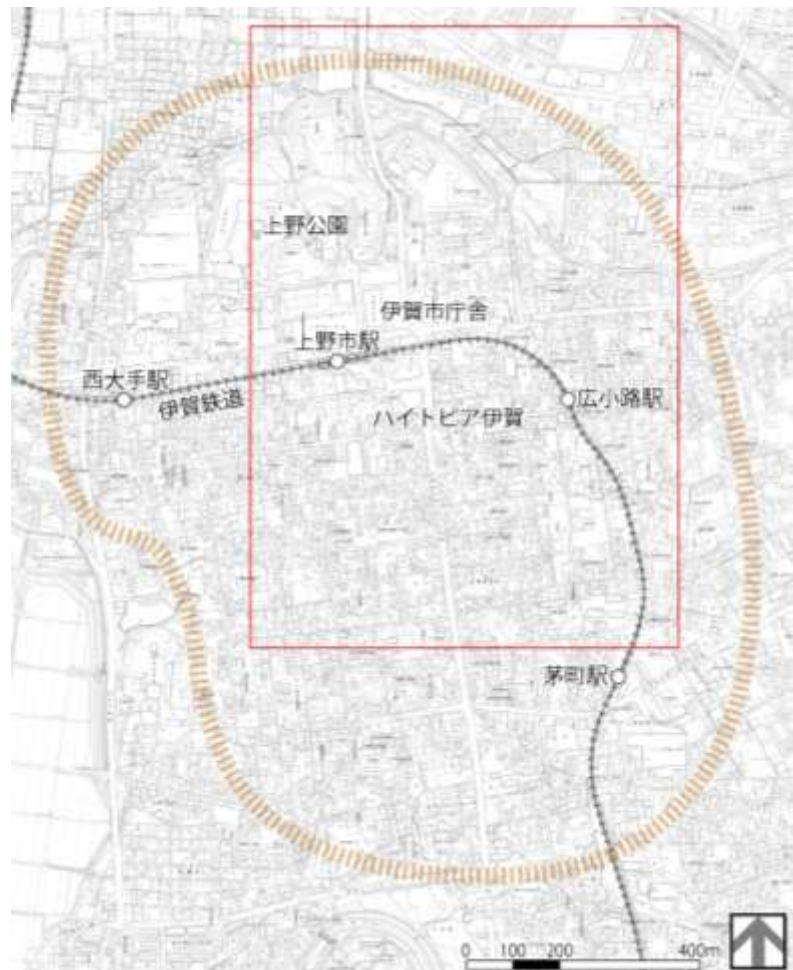
前項や既往計画、各種答申、請願、要望、協議会意見等を踏まえ、中心市街地に今後必要な機能を次のとおり整理します。

既往計画 各種答申 請願、要望 協議会意見 など	中心市街地に必要な機能
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に開かれた資料や情報のネットワーク拠点 ・賑わいや憩いの拠点 ・伊賀の文人、作家等を検証し学び、後世に継承する拠点 ・まちなか周遊の拠点 ・市民の生涯学習を支援する拠点 ・伊賀の食を楽しむことができる場 ・丸之内周辺の賑わいづくりの拠点 ・若者や高齢者が自由に集まれる場 ・市民への総合的な情報発信の拠点 ・市内の物産が集結する場 ・芭蕉翁文学継承の場 ・市民の作品展示の場 ・高齢者が行きやすい店

② 賑わい創出の範囲

伊賀市の賑わい創出の範囲は、今後のソフト面や民間主体の取り組み拡充の必要性も見据えて、城下町を中心に想定しています。

図 中心市街地想定エリア

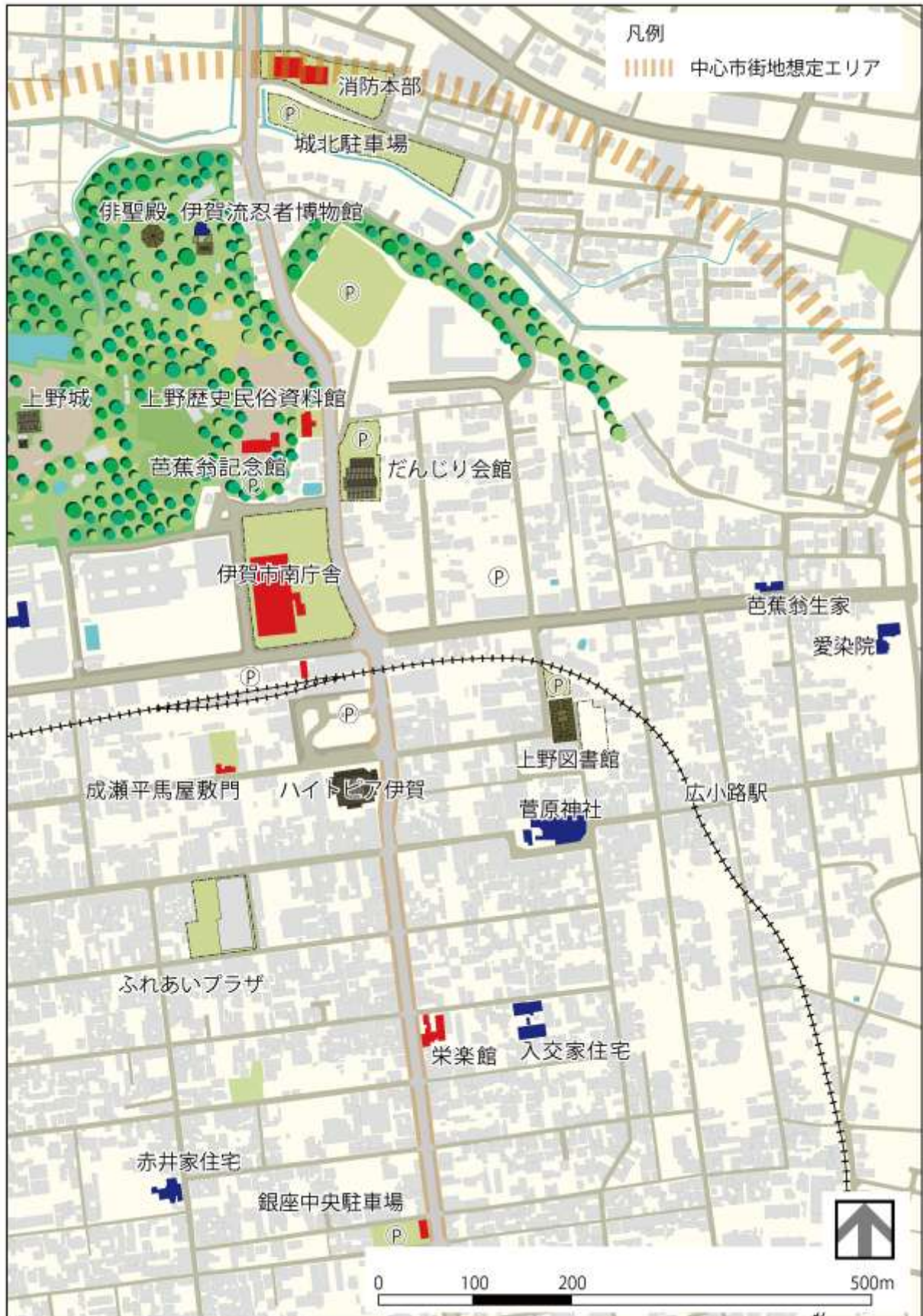


- 凡例
- 中心市街地想定エリア
 - グランドデザイン提案エリア

背景地図出典: 2011三重県共有デジタル地図
 (数値地形図2500(道路縁1000))
 三重県市町総合事務組合

グランドデザインの策定にあたっては、中心市街地全域の賑わいを見据えつつも、回遊向上施策をその範囲全体に一度に講じることは困難であることから、様々な機能が集積し各ゾーンの中心地でもある丸之内周辺の提案とします。

図 グランドデザイン提案エリア



背景地図出典：2011三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合



(5) 将来のゾーニング

① 基本的な考え方

将来のゾーニングは、中心市街地が求める賑わいの創出に向け、現状のゾーニングを踏まえるとともに、その創出の拠点として、現伊賀市庁舎地をはじめとした新たな機能配置による拠点を位置付け、既存資源の有機的なネットワーク形成につながるゾーニングの設定を行います。

② 将来のゾーニング

前項を踏まえ、将来のゾーニングを次のとおり設定します。

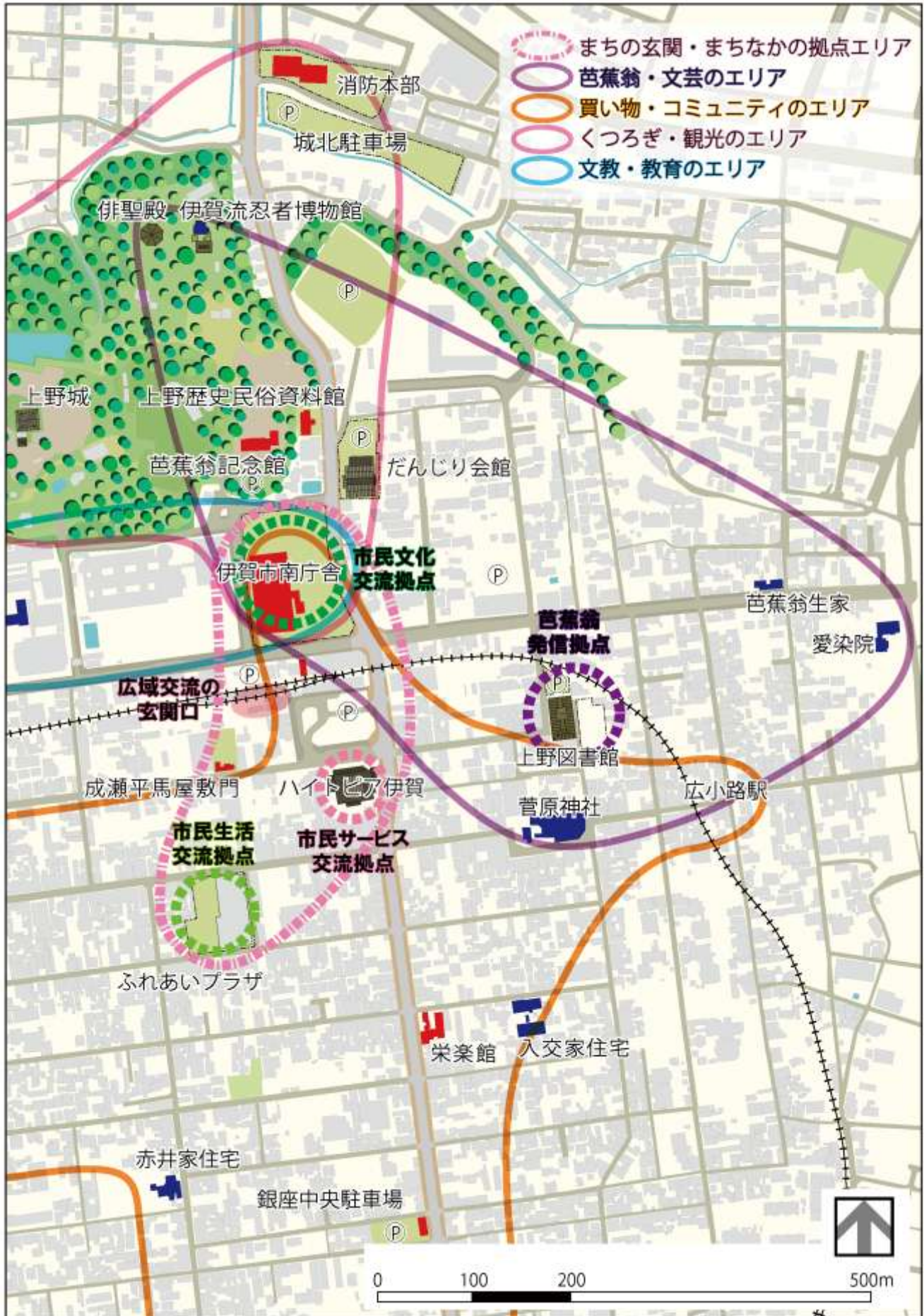
ゾーン	共通		考え方
	拠点		
まちの玄関・ まちなかの 拠点エリア	市民文化 交流拠点	広域交流の 玄関口 市民サービス 交流拠点	市民や地区住民への情報発信・交流機能や、観光客を迎え入れる観光情報・発信機能を備える、まちの賑わいの中心となるゾーン
芭蕉翁・文芸 のエリア		芭蕉翁発信 拠点	関連施設との連携を強化することにより形成する、伊賀市を誇る新たな芭蕉翁ゾーン
買い物・ コミュニティ のエリア		市民生活交 流拠点	若者や高齢者など誰もが安心して暮らせ、また行きやすい、まちでの暮らしや営みを支えるゾーン
くつろぎ・観光 のエリア		上野城等 (既存)	上野公園を中心に、市民のくつろぎや観光客が伊賀の歴史や忍者などにふれることのできるゾーン
文教・教育の エリア		上野高校等 (既存)	城郭跡に形成された、子どもたちや学生が学び・育ち、また市民の生涯学習を支える文教ゾーン

③ 駐車場の有効活用

中心市街地において新たな機能配置を行う際、駐車場の確保はかねてからの課題となっています。

将来のゾーニングを設定するにあたっては、周辺の駐車場（13 頁図参照）を有効に活用し、相互連携を図ることでその解消を目指します。

図 将来のゾーニングの考え方



背景地図出典:2011三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000)) 三重県市町総合事務組合



□ 検討の経過

(1) 協議会の開催状況

協議会では、以下のような枠組で伊賀市の賑わい創出グランドデザイン(案)を検討しています。

表 伊賀市の賑わい創出検討協議会の開催状況

	開催日時	場所	議事内容
第1回	平成27年11月6日 13:00～16:00	市役所本庁 第1委員会室	<ul style="list-style-type: none"> 委員の委嘱 伊賀市の賑わい創出に向けた取組経緯 伊賀市の賑わい創出検討協議会の役割、検討スケジュール 関連計画の説明 グランドデザインの基本方針(案) 意見交換
第2回	平成27年11月24日 15:30～17:30	市役所本庁 第1委員会室	<ul style="list-style-type: none"> 関連計画の補足・追加説明 グランドデザイン基本方針(案) 賑わい創出に係る検討 <ul style="list-style-type: none"> 賑わい創出検討の流れ 協議テーマとキーワード 市街地の主要施設と活用提案等 意見交換
第3回	平成27年12月18日 13:00～17:00	(現地) 市役所本庁 第1委員会室	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察 中心市街地のゾーニングについて <ul style="list-style-type: none"> 伊賀市域の都市構造 現状の中心市街地のゾーニング 中心市街地周辺の断面構成等 意見交換
第4回	平成28年1月14日 13:30～16:00	市役所本庁 第1委員会室	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の賑わい創出案(4案) タイプ別事業の比較 <ul style="list-style-type: none"> 事業規模、事業費 タイプ別のメリット・デメリット 市役所南庁舎について 意見交換
第5回	平成28年1月28日 14:00～16:00	市役所本庁 第1委員会室	<ul style="list-style-type: none"> 施設配置案(4案) 費用とスケジュールの比較 意見交換 グランドデザイン中間案(報告) パブリックコメントに向けて
	平成28年2月5日～同3月4日		<ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントの実施
第6回	平成28年3月7日 13:30～16:00	市役所本庁 第1委員会室	<ul style="list-style-type: none"> 伊賀市の賑わい創出グランドデザインについて <ul style="list-style-type: none"> パブリックコメントの結果及び回答について グランドデザインについて 他

(3) 伊賀市の賑わい創出検討協議会委員名簿

区 分	委員名	団 体
第1号委員 (公共的団体等の代表者)	田山 雅敏	上野商工会議所
	柘植 満博	伊賀市商工会
	廣澤 浩一	一般社団法人伊賀上野観光協会
	西田 誠	公益財団法人芭蕉翁顕彰会
	堀川 一成	伊賀市中心市街地活性化協議会
	中村 忠明	公益財団法人伊賀市文化都市協会
	服部 明	東部地域住民自治協議会
	八尾 光祐	上野西部地区住民自治協議会
	風呂矢 精二	上野南部地区住民自治協議会
	前川 三郎	伊賀地域自治推進会
	増永 秀美	島ヶ原地域まちづくり協議会
	宮本 博昭	阿山地区住民自治協議会連絡会
	奥 千史	大山田地区住民自治協議会連絡会
	阿部 修	青山住民自治協議会会長連絡会
	喜多 美智瑠	伊賀市PTA連合会
上田 功介	一般社団法人伊賀青年会議所	
第2号委員(学識経験を有する者)	浅野 聡	三重大学工学研究科建築学専攻准教授
第3号委員(市行政関係者)	辻上 浩司	伊賀市副市長
第4号委員 (その他市長が必要と認める者)	高倉 一紀	元伊賀市新図書館建設計画検討委員会会長
	上田 一善	北伊勢上野信用金庫専務理事